



特集—原子力発電のよりよき理解のために———全誌編集委員会

わたくしたち日本人と「原子の火」とのたまさか、それは悲しい出会いでした。第二次世界大戦における敗北の証、無に至らしめた死の灰の残影、そして国民的総意として獲得した平和国家日本の象徴「原爆ドーム」……

それは、われわれに巨大な富を約束してくれるはずのものでありながら、人類社会への登場の序幕には、祝福されない死への花束が捧げられたのです。

太古のむかし、われわれの祖先が「火」を知ることによって築き得た今日の文明は、石炭・石油を灯しつづけることによって支えられ、やがて第三の火「原子」の力を借りなければすまないところまでできてしまいました。明治以来、土木界の多くの先輩たちは水力エネルギー開発の旗手としてその重責をみごとに果たし、次いでその深い経験を生かして火力発電所の建設を助けてきました。いま、わたくしたちは「第三の火」を灯すために、その能力を存分に活用すべき大切な秋を迎えたのです。

歴史の教訓は、人類が常に新しいエネルギーを求めてたたかいつづけた努力を賢えています。「第三の火」原子力エネルギーをこの国土の環境にマッチした最良の状態で生み出す必要が目前に展開されようとしているいま、水力開発以来の技術の伝統を生かし、われら土木技術者としてできるかぎりの英知を、この人類にとってかくべからざる新しいエネルギー開発事業に注ぎたい、そうして、歴史のひとこまにきざまれるささやかな記録を残したい、そう念ずるものです。

そして、いまや多くの悲しみをのりこえて、原子力エネルギーをわたくしたちのより豊かな生活の繁栄の種とするために、最大限に利用する 때가 せまっています。原子力エネルギー開発のための新技術開発への挑戦—— それには、一体どのような問題がわたくしたち土木技術者に課せられるのでしょうか？

この特集が、この問題のよりよき理解のために役立つものとなるならば幸いです。